

一般演題 口演 26

急性期リハビリ・早期介入

座長: 佐藤 昭彦(さとう内科循環器内科クリニック)

前野 孝治(福井県済生会病院 循環器内科)

O-162

集中治療室に入室した急性非代償性心不全患者の歩行能力低下に関する因子の検討

○田代 尚範^{1,2}、南雲 さくら³、水上 拓也³、磯 良崇⁴、鈴木 洋³

¹昭和大学藤が丘病院 リハビリテーション室、²昭和大学 保健医療学部 理学療法学科、³昭和大学藤が丘病院 循環器内科、⁴昭和大学スポーツ運動科学研究所

【目的】集中治療室(ICU)に入室する急性非代償性心不全(ADHF)患者はしばしば歩行機能が低下するがその要因は不明である。そこでICU入室したADHF患者の歩行能力低下に関与する因子を検討した。【方法】2016年1月-12月にICU入室しリハビリテーション介入したADHF患者47名を対象とし、退院時歩行能力が入院前と同等であった25例を非低下群、低下した22例を低下群として比較した。【結果】低下群では、高齢(非低下群 vs 低下群=74.6±2.3 vs 81.6±2.4歳、p=0.03)、入院時BNP高値(1031±290 vs 2027±309 pg/ml、p=0.02)、在院日数延長(25.5±2.8 vs 32.1±3.0日、p=0.04)、ICU退室時ICDSC高値(0.2±0.2 vs 1.0±0.2点、p=0.009)を認めた。歩行能力低下に対する多変量解析では、ICU退室時ICDSC(OR 2.61、p=0.02)、入院時BNP(OR 1.0、p=0.04)が有意であった。【結語】ICU入室しリハビリテーション介入したADHF患者では、ICU退室時ICDSCと入院時BNPが退院時歩行能力低下に関与した。